

# まちの地域力

第4回  
みはらのなつまつり

～自分たちのまちは自分たちでつくる～

第五次小郡市総合振興計画(マスタープラン)に掲げられた基本理念「市民との協働のまちづくり」は、自分たちの地域のごことは、自分たちで知恵を出して考え、自分たちで決定し、自分たちの力で実践して、みんなで責任を持ちながら助け合い、支え合い、そして認め合っていく地域社会をつくることです。

「自分たちのまちは自分たちでつくる」ことを基本にした「協働のまちづくり」は、すでに市内各地で地域住民の皆さんが主体となった取組みが行われています。第4回「まちの地域力」では、御原保育所で行われた「なつまつり」の活動を紹介します。



神輿を先導する区長さん

## 顔見知りからの交流

7月7日に御原保育所で「みはらのなつまつり」が行われました。テーマを「なかま」として地域の方との交流を通し、たくさんの方に見守られている安心感を持つことなどの4つの目標があります。

人と人との関係が希薄化している今、幼少期に多くの人と触れ合う機会は、育成の道のみで大きな糧となります。子どもたちは、御原校区の行政区で行われている健康体操や公民館のサークル活動に出かけ、参加者の方と顔見知りになることから心のもった交流が積み重ねられています。地域の皆さんの愛情が、子どもたちの心を大きく育てています。

## 子どもの元気が、地域を元気に!!

今年で3回目となる夏祭りは、今年から保護者や区長、民生委員など地域の方で構成した実行委員会で企画・運営し、さらに地域とつながりを深めることができました。

年齢の異なる園児を2つのグループにわけ、園児同士が教え合いながら神輿を手づくりしました。グループカラーに絞り染めしたTシャツに身を包み、子ども神輿が勇ましい掛け声と共に地域を回りました。

御原校区は、市内で一番高齢化率の高い校区です。外に出歩けない方もいれば、独り暮らしの高齢者の方もいます。どこからか聞こえてくる「ドン! ドン!!!」という太鼓の音と「わっしょい!! わっしょい!!!」元気な子どもたちの掛け声に誘われ、地域の方々が沿道に顔をのぞかせ声援を送りました。

夏祭りの会場では白鷺会の演奏や保護者のお店が祭りを盛り上げ、区長さん達は昔ながらの竹細工のおもちゃを作ってくれました。この日のためにたくさん練習した園児の歌やフラダンスの後に、地域の方々に教えてもらった「健康体操」と「炭坑節」を会場のみんで踊り楽しい時間を終えました。



みんな健康体操と炭坑節を踊ったヨ!

## 「人づくり・人育て」

御原校区代表の山下区長(古飯区)は、「子ども同士や保護者同士、地域とのつながりは、人づくりであり人育てです。「みはらのなつまつり」を通じて、顔が見える関係を築いていくことが互いを知る一歩になります。子どもたちを地域のみんで育てることや子どもと一緒に育つことに繋がっていきます。子どもたちが大きくなって、自分の子どもたちに語れるような「ふるさと」づくりを行いたい」と話されました。

子どもを中心とした夏祭りの準備の中で、保護者同士や地域の方々のつながりが生まれ、子どもたちを見守る人たちの輪が広がっています。世代を超えた交流が、笑顔とやさしさに包まれた「まちづくり」の原動力になっています。



竹細工おもちゃで遊んだよ



海がテーマ  
「かにさん」のおみこし



宇宙がテーマ  
「ロケット」のおみこし

問合せ先 協働推進課コミュニティ推進係(内線252)